

ただしく つよく

～目指す幼児児童生徒～

- 心身ともに健康で、豊かな気持ちで活動ができる
 - 自分と知り、友だちと仲良く、他者と尊重できる
 - 自ら学び、日本語の力と学力をしっかりと身につける
 - 自分の責任をしっかりと果たすことができる
- <子どものインターネット・スマホ事情について>

先月行ったインターネット利用状況調査へのご協力、ありがとうございました。それに関して、先日開かれた生活安全の研修会で話題になったことの中から、ご家庭(保護者)に関わることをお伝えしたいと思います。

まず県内の小4～中3までの児童生徒の中で、ネットトラブルに巻き込まれたことがあると答えた児童生徒は、5%程度いるそうです。多いと感じますか。少ないと感じますか。そのトラブルは、小4・5は圧倒的に男子児童の方が多く、小6で女子が増え始め、中学生では逆転して女子生徒のトラブルの方が多くなります。内容としては、男子小学生は「長時間利用」「お金に関わること」「不適切閲覧」などで、女子中学生は「性被害」「いじめ・誹謗中傷」などが主です。

そこで、ご家庭(保護者)に求められることとして、まず子どもの「好きなこと」「楽しいと感じていること」を受け止めてほしいということでした。スマホ=悪のように頭ごなしの否定をする保護者、スマホやタブレット端末を与えておけば静かにしているからという無関心な保護者、子どもよりスマホゲームに依存している保護者などが増えているようです。これからの時代になくしてはならないもの、正しい知識で適切に利用していくものとして捉え、親と子が同じ利用者としてともに学ぶという視点が必要とのことでした。



<熊の出没に関して>

現在県内ではどのような場所であっても熊の目撃情報を耳にするようになりました。以前は絶対に熊はいないと言われてきた地域、場所での目撃も増えています。子どもたちを熊から守るためには、大人が熊の生態や事故の原因を理解し、通学路や学校周辺、自宅周辺などの環境を整えることが大切です。また、同時に子どもたちに自分の身の守り方を教えていくことも必要です。

熊の大きさはさまざまです。昨年度熊の被害に遭った男子高校生は、「黒い大きな犬が見えたが、自転車で通り過ぎようとした。」と話していたそうです。熊の活動時間は朝方と夕方がもっとも活発で、朝方は高齢者の被害が多く、夕方は部活動帰りの中高生の被害が多いようです。最近は熊に関する誤解も多く、「熊は人を食べる」とか「冬眠前の秋は餌を蓄えるから動きが活発」とか「鈴やラジオの音に寄ってくるから逆に危険」などは全て間違った情報だそうです。

残念ながら毎年のように熊による事故が報告されています。子どもたちが被害に遭わないように、正しい知識を共有することが大切です。

- 【3つのステップ】
- ①：突然出くわさないように音を出す。一人にならない。明るいうちに帰る。
 - ②：熊(らしきもの)に出遭ったら、ゆっくり後ずさりする。走らずに離れる。
 - ③：熊(らしきもの)近付いてきたら、助けを呼ぶ。頭を守る。